

なかつか 亮



原発からの撤退

地方自治体・議会からも声をあげよう

原発からの撤退を求める意見書 (共産党提案・要旨)

福島第1原子力発電所の事故により、多くの住民が避難を余儀なくされるなど甚大な被害をこうむりました。原発は、ひとたび大量の放射性物質が放出されれば、被害は深刻かつ広範囲で、将来にわたっても影響を及ぼします。日本政府は、安全が確認されたとして原発の再稼働を容認。東海地震の予想震源域の真上にある浜岡原発も津波対策が完成すれば再稼働を認める方針です。しかし、それで万全だという保障はありません。

「安全神話」を真摯に反省すべきです。

ドイツ、スイスが原発撤退を決め、イタリアは国民投票で原発反対派が圧勝しました。日本国内でも原発撤退が多数。区民にも放射能への心配が広がっています。福島県は原発に依存しない復興を打ち出し、他の原発設置自治体の首長も原発撤退を訴えています。以上をふまえ、品川区議会は日本政府が原発からの撤退を決断し、期限を決めて原発の全廃に取り組むよう求めます。

福島原発事故により、原発依存のエネルギー政策が問われています。共産党は6月23日から始まった品川区議会でも、原発撤退を日本政府に求めるよう品川区長に提案。あわせて品川区議会としても政府に意見書(左)を提出するよう各党に賛同を呼びかけました。区長は国の問題として意見を述べることを拒否。区議会では自民、公明、民主、ネットら区議の反対で意見書提出は叶いませんでした。

福島原発周辺の地域では、深刻な放射能汚染が広がり地域社会の維持も、今後の生活も困難にしています。さらに、放射能汚染は首都圏を含む広範囲にわたり、土壌、水、食糧に広がっています。原発事故は、他の事故にはない重大な被害をおよぼし、原発と人間社会が共存できない事が明らかになりました。裏へ



品川・濱野区長の

姿勢を質す

共産党は「原発依存のエネルギー政策をこのまま続けていいのか」と指摘。子どもを放射能から守りたいとの一心で南相馬市から知人を頼って品川区内に避難してきた方の「東電が生活を狂わし、人生を狂わした」との怒りの声も紹介し、原発の危険性への認識と原発撤退を国に求めるよう求めました。

ところが濱野区長はエネルギー政策は国の問題だとし原発撤退を政府に求めることを拒否しました。

住民・自治体に

心を寄せて

福島県は原発に頼らない復興を掲げ、

原発設置県や近隣自治体からも、次々に反対・懸念を表明しています。

東京23区は電気の大消費地です。濱野区長は原発を押し付ける側になるのではなく、原発に苦しむ住民・自治体に心を寄せて原発撤退を政府に求めるべきではないでしょうか。

地方議会からも声をあげる時

地方議会からも原発撤退の意見書があげられています。

埼玉県・新座市議会では「段階的縮小や廃止を含むエネルギー政策の見直しを求める意見書」が全会一致で可決。東京都・清瀬市議会では「原子力発電からの

撤退を求める意見書」が賛成多数で可決（自民の一部と公明は反対）されました。

品川区議会も原発撤退の声をあげるべきです。

安全な自然エネルギーの本格活用を

共産党は原発撤退と共に、自然エネルギー推進を提案しています。日本の自然

エネルギーは環境省の調査でも、太陽光、風力、水力、地力などの潜在的な発電能力は原発54基の40倍と発表。自然エネルギーの飛躍的な普及は可能です。原発依存のエネルギー政策から自然エネルギーの本格活用への転換を求めがんです。なかつか亮



泥かき作業



土のう30袋

宮城県石巻市へ 救援ボランティア

6月26日出発の3泊4日共産党救援ボランティア。支援物資の配布、泥かき作業などを行いました。救援活動の報告集会を7月16日（土）18：30から、大井第二区民集会所で行います。ぜひ、ご参加ください。



支援物資



支援物資はトラックで住宅街の駐車場に。ブルーシートを敷き、野菜、食器、夏服などを並べ共産党の石巻市議（水澤さん）がハンドマイクで呼びかけると次々に住民が集まります。泥かき作業は学生ボランティアと一緒に。一日で土のう30袋以上に。詳しくは報告集会で。